

在宅療養へ向けて：患者個々の状態に合わせた創意工夫

2011JSPEN

岐阜勤労者医療協会 みどり病院 薬剤部¹⁾ 病棟看護課²⁾

栄養科³⁾ 内科 (NST) ⁴⁾

○今西正人¹⁾ 古田祐子²⁾ 大須賀宗浩³⁾ 野々山由紀子⁴⁾

【目的】 現在食品・医薬品ともに様々な経腸栄養剤があるが、保険適応の有無や自己負担額、採用品・非採用品などの問題により、患者の状態にベストなものを必ずしも選択できるとは限らない。

今回高カリウム血症を呈した経腸栄養施行中の患者に対し、在宅療養へ向けてNSTが工夫をした症例を報告する。

【症例・経過】 80代女性、脳梗塞後。当初は経口摂取と経鼻栄養を併用していたが、脳梗塞発症1ヶ月後の時点で嚥下機能の低下と経鼻チューブの自己抜去が続いたため、本人承諾後PEGへ。

当初嘔吐が治まらなかったため、経腸栄養ポンプを利用し、

サンエット-N3からエンシュア・H+レナウェル3と内容を変更した(表1)。

(約3分間の動画です)



←携帯電話からはQRコードで

<http://www.youtube.com/user/DrNrPh> にて公開中

(表1)

	案①	案②	案③
エンシュア・H (250mL/本)	2本		
サンエットN3 (200mL/本)		4本	5本
レナウェル3 (125mL/本)	2パック	2パック	
とろみ茶	150mL	150mL	
白湯	300mL	100mL	250mL
カロリー	1150kcal	1200kcal	1000kcal
水分量	1026mL	1118mL	1100mL
タンパク	32.4g	38.0g	40.0g

(表2)

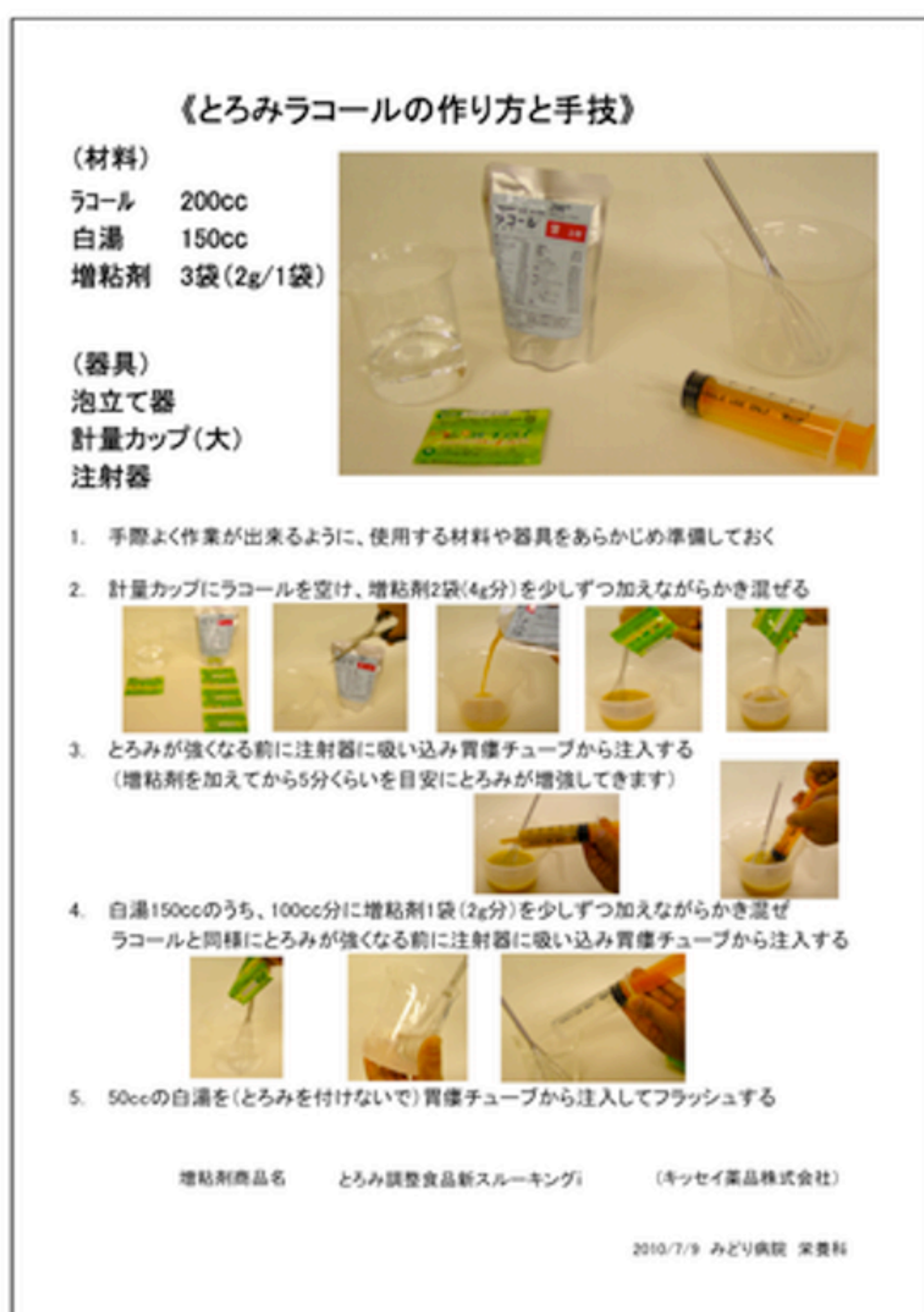
	カリウム含有量
エンシュア・H×2 レナウェル3×2	1.16
サンエットN3 (1000mL)	1.59
ラコール (1000mL)	1.38

その後腎機能に変動があった(血清クレアチニン値0.92~1.28、血清カリウム値5.8)ため、アーガメイトゼリーを2個/日使用して血清カリウム値をコントロールした。

当初施設入所を目指し施設とコンタクトを取ったが、提案した3つの案(表1)はいずれも難しいこと、アーガメイトゼリーの投与もできれば避けてほしいとの返事があったため、病態に合わせた経腸栄養が継続できないと判断し断念。

その後病室にて「今の状態なら、自分たちで出来るかも」と家族の気持ちに変化が見られたため在宅へ向けて準備を開始した。しかし経腸栄養ポンプを在宅で使用できないこと、市販の半固形化栄養剤の金額に対し(家族に)抵抗感があったことから、カリウム含有量も踏まえ(表2)、「とろみ付きラコール」を選択した。手技は家族、訪問看護ステーション看護師へ実演、プリント(図1・2)および動画(YouTubeは右上URL参照)で伝授し、全員が理解できるように手配した。

(図1)



(図2)



【考察及び結論】 市販品が様々な理由で使用できなかった場合、NSTが知恵を絞り、限られた品目の中からベストなものを選択し、創意工夫することが重要だと思われた。